

東日本大震災 全日本民医連支援ニュース

現地の仲間・住民と連携し「民医連ここにあり」の心意気でともに力を合わせて頑張りましょう！

NO. 25 2011. 3. 31 18:50 発 全日本民医連対策本部

Mail : taisaku-honbu@min-iren. gr. jp

◇被災地域・避難所に私たちのケアを届けよう◇

－あらたな段階での介護職の支援活動について発信－

避難所での生活が長引く中、寒さによる体力の低下、ADLや健康状態の悪化、意欲の低下、孤立化など、避難所での高齢者の状況はとりわけ厳しいものとなっています。中には、認知症があったり介護を要するために、避難所で過ごすこと自体が困難になっている高齢者も多数います。

また、自宅で過ごす高齢被災者も、配給物資の受け取りや買い物など、日常生活に様々な困難・支障を抱えており、震災で散乱した屋内を片づけられないままになっている事態もみられます。今後、住まいの確保をふくめ、長期にわたる被災者の生活再建に向けた取り組みが必要となります

宮城厚生福祉会では、「宮城野の里」(ケアハウス)の一部スペースを「福祉避難所」として活用し、自宅や避難所で過ごすことが困難な高齢者の受け入れを開始しており、現地職員と全国からの支援者が協力しながらケアにあたっています。

今後の長期的な支援を展望するにあたって、介護職の組織的な支援が求められており、4月以降、介護職の支援について独自に支援者を集約することになりました。(☆詳しくは添付した3月31日付ア号通達431号をご覧ください。)

多賀城の避難所医療支援に奮闘！

= 支援に入った小児科医師 (和歌山医療生協) のレポート (3/30) です =

今日は終日避難所でした。体制は、医師4名、看護師4名、薬剤師1名、事務3名。行ったのは多賀城文化センターで、ここは多い時で1000人ぐらいが避難していた大きな避難所です。自衛隊も常駐していて、お風呂を提供しています。多賀城市はまだ水道が復旧していないところが多いようです。加えて下水処理が出来なくなりそうで、心配です。トイレは、館外の仮設で、汚れています。そのため、排便を我慢して便秘になっている方もあります。生活環境面ではかなり悪く感じました。

医療面では、自衛隊仙台病院から毎日巡回診療もありますが、中心は坂病院からの巡回チームです。センター館内は埃っぽく、寒く、内部もゴチャゴチャしている感じで、避難者の状況を把握しにくい構造。そのため、固定の診察場所だけでなく医師と看護師二人で組んで、館内をまわります。そして気になる方の居る場所と様子をメモして翌日のチームに申し送るシステムにしています。朝10時前に到着して昼休みをはさんで16時まで行動し、一旦帰院し、この後18時過ぎに再度向かいます。(16時から18時まで休むのは、その間自衛隊の巡回診療が来るからです。)

この間の取り組みで、女性用の更衣室を作ってもらいました。障害者用トイレを車イスの方のために使えるように、とも提案したようです。

この避難所で感心したのは、被災後早くから(15日頃)地元の高校生や専門学校生、大学生、などがボランティアで呼びかけあって、小さな子ども達のために遊びの場所を作って遊んであげる取り組みを続けていることです。現在10人あまりが関わっているようです。激励して、持参した折り紙やお手玉それにアメ玉を渡しました。そういった取り組みがなされているためか、ここの子ども達は比較的自然な感じでした。

昼間の診療では気になる方は多くありませんでしたが、前日から気になっていた肺気腫、心不全の方がやっと入院に同意され、救急車で坂病院に運ばれました。18時過ぎに再度夜の巡回。今度は、支援に到着したばかりの方も増えて、医師7名、看護師4名、薬剤師3名、事務4名の総勢18名。夜もそれなりに診察は多かったです。それ以上に足湯をやったのが好評だったようです。21時過ぎに帰院し総括会議、皆さんそれぞれに素晴らしい意見、感想を語られ、貴重な経験が出来ました。

東日本大震災への支援行動について集中のおねがい

被災地への医療支援以外にも、地元での避難所支援や荷物の運搬など、幅広く震災支援に取り組まれていることと思います。それらの活動状況をつかむために、3/31 付ア号通達 430 号で「東日本大震災への支援行動について集中のおねがい」を発信しています。ご協力お願いします。

*** 支援募金 8,000 万超えました！ ***

◇全日本民医連支援ニュースの活用をお願いします◇

☆状況は刻々と変わります。各県連におかれましては、各事業所にリアルタイムに転送をお願いします。